

評価案の考え方について

「I 個別事業」に関する評価の考え方

1. 大学等の戦略との整合性等 [a,b,c (3段階評価)]

①施設整備計画等との整合性 [a,c (2段階評価)]

②各大学等の優先度 [a,b,c (3段階評価)]

全てa

aとb

左記以外
(cを有する)

a評価
(2点)

b評価
(1点)

c評価
(0点)

①施設整備計画等との整合性

[評価の視点] 各大学等が策定するキャンパスマスタープランや中期目標・中期計画などに沿った内容となっているか。

②各大学等の優先度

[評価の視点] 各大学等において優先順位が高い事業か。

2. 事業規模や費用等の適正性 [a,b,c (3段階評価)]

①改修、改築や増築の必要性 [a,b,c (3段階評価)]

②事業費用の妥当性 [a,b,c (3段階評価)]

全てa

aとb、又は
全てb

左記以外
(cを有する)

a評価
(2点)

b評価
(1点)

c評価
(0点)

①改修、改築や増築の必要性

[評価の視点]

- 機能性・安全性の観点から、改修等の必要性が高い施設/基幹設備を対象としているか。
- (改築の場合、) 取壊し予定の建物が、改修によっては機能性・安全性の確保が困難な事情を有しているか。
- (増築等の場合、) 狭隘化の状況等
- (病院整備の場合、) 再開発整備計画や地域医療ニーズ等を踏まえた事業か。
- 災害時等における医療機能の維持が可能であり、かつ適切な事業か。

②費用の妥当性

[評価の視点] 事業規模当たりの費用が過大でないか。

3. 教育研究等への効果 [a,b,c (3段階評価)]

①これまでの教育研究等の「実績」 [a,b,c (3段階評価)]

②見込まれる教育研究等の「効果」 [a,b,c (3段階評価)]

全てa、
又はaとb

全てb

左記以外
(cを有する)

a評価
(4点)

b評価
(2点)

c評価
(0点)

[評価の視点] →後掲

4. 環境負荷低減のための取組 [a,b,c (3段階評価)]

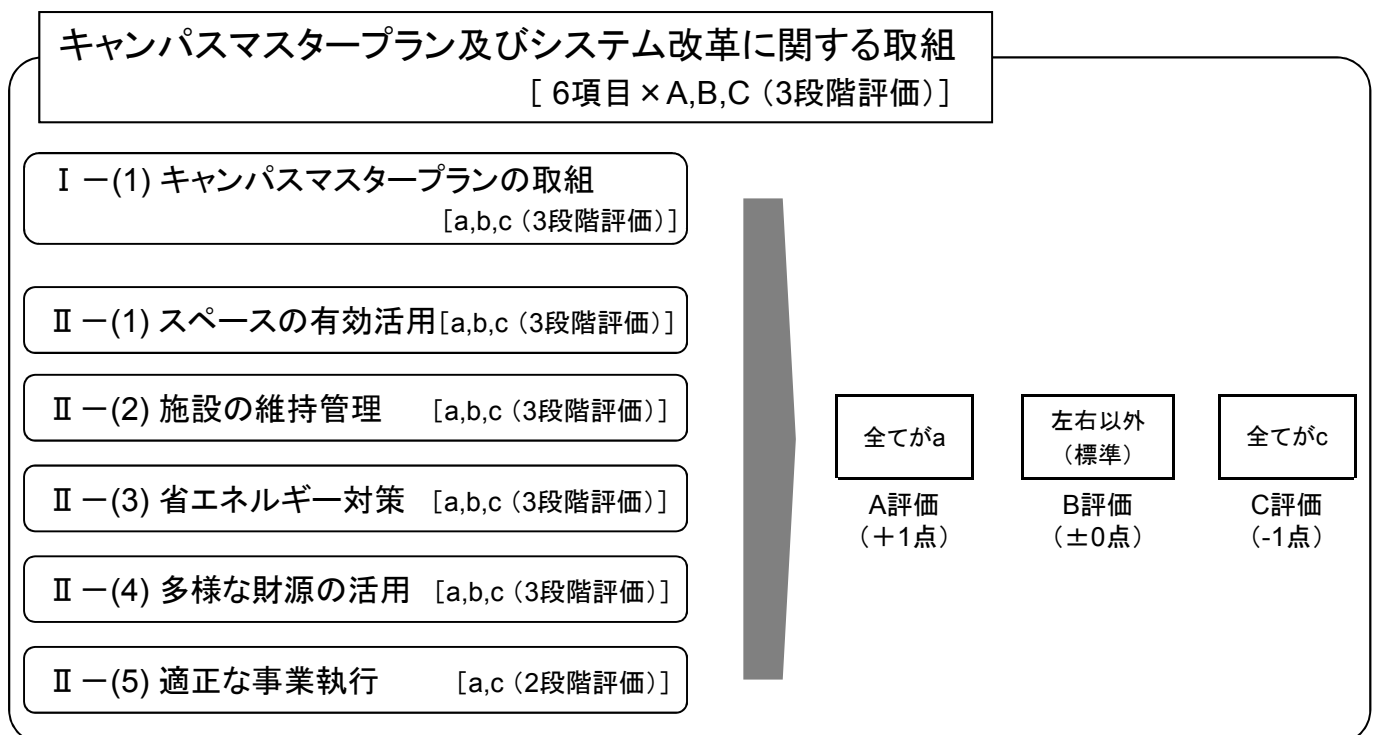
[評価の視点]

環境負荷低減のための対策工事の状況や当該事業に伴うCO2の排出抑制効果

5. 安全・安心の確保 [a,b,c (3段階評価)]

[評価の視点] 耐震性能、経年状況、事故歴等による

「Ⅱ キャンパスマスタープラン及びシステム改革に関する取組」 に関する評価の考え方



I. キャンパスマスタープランに関する取組 → 各法人等が該当項目(◎、○、△)をチェック

II. システム改革に関する取組

(1) スペースの有効活用に関する取組 → (特筆すべき取組について)を自由記入

[評価の視点]

- ・共同利用スペース等の一部スペースのみならず教育研究スペース全体を対象とした弾力的・流動的なスペースの活用が行われているか。
- ・スペースマネジメントの取組が次のスペースマネジメントに繋がる循環的な取組が行われているか。
- ・一定の業績を残している教員に対して優先的にスペースの配分を行い、教員の力量を発揮・向上させるために、メリハリあるスペースの配分に係る取組を行っているか。等

(2)施設の維持管理に関する取組 →各法人等が該当項目(◎、○、△)をチェック

(3)省エネルギー対策に関する取組

(4)多様な財源を活用した施設整備 →各法人等が該当項目(◎、○、△)をチェックした上で、(特筆すべき取組について)を自由記入

[評価の視点(特筆すべき取組)]

- ・他法人には見受けられない手法による多様な財源を活用した施設整備が行われているか。
- ・多様な財源を活用した施設整備を通じて教育研究、地域貢献等に成果が現れているか。
- ・多様な財源の獲得のために地域公共団体等との連携を強化し、それに伴う施設整備の実績が認められるか。等

(5)適正な事業執行 →各法人等が該当項目(◎、○、△)をチェックした上で、(特筆すべき取組について)を自由記入
→ただし、直近の施設整備費補助金の執行に当たり、円滑と認められない取扱いがなされている場合、c 評価

[評価の視点(特筆すべき取組)]

- ・補助金の適正な執行を目的として、学内規則の策定や、特別の組織を設置しているか。

[評価の視点(円滑と認められない施設整備費補助金の執行の取扱い)]

- ・予算繰越しが常態化していないか。(過去3年の当初予算措置事業について、5回以上の繰越を行っていないか。)
- ・補助事業の執行に当たり、会計検査院から指摘を受けるといった不適切な取扱いが行われていないか。

「3. 教育研究等への効果」に関する評価の視点

評価案の基本的な考え方

- 「実績」/「効果」とともに b評価 を基本
 - ～特に優れた実績/効果が認められる場合：a評価
 - ～一定の実績/効果が認められる場合：b評価
 - ～実績/効果が不明瞭な場合：c評価
- 昨年度からの継続要求事業は、原則として昨年度と同評価を基本。ただし、説明内容に変更や追記等がある場合は、必要に応じ見直しを実施。

カテゴリ①：国際的に卓越した教育研究拠点機能の充実

[評価の視点]

【実績】主に研究面から、国際的に卓越した拠点であることを示す実績はあるか。

【効果】当該施設整備に伴って、研究活動の一層の充実強化が期待されるか。

(例)	a	b
実績	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国家的プロジェクトへの参画、グローバルCOEプログラム等の大型競争的資金を獲得 ○ 国際会議の開催、国際学術誌への掲載、国際的な受賞歴等の実績がある ○ 国際的に論文被引用数が多い 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 競争的資金を獲得 ○ 共同研究・受託研究を実施
効果	<ul style="list-style-type: none"> ○ 研究上の課題等に対応して、具体的な施設整備の内容が示されるとともに、今後、研究活動の一層の充実強化が見込まれる 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 施設整備による研究活動の推進が見込まれる

カテゴリ②：国際化の推進機能の充実

[評価の視点]

【実績】海外の教育研究機関との連携や国際貢献に向けた取組が行われているか。

【効果】当該施設整備に伴って、大学等の国際化の一層の推進が期待されるか。

(例)	a	b
実績	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国際化拠点整備事業(グローバル30)やグローバルCOEプログラム等を獲得 ○ 留学生や外国人研究者の受入れ割合が高い 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国際交流協定を締結している ○ 留学生の受入れや海外派遣等を実施している ○ 海外機関と共同研究等を実施している
効果	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国際化の推進のため、必要となる施設整備の内容が示され、今後、その一層の充実強化が見込まれる 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 施設整備による国際化の推進のための取組が見込まれる ○ 留学生等の受入れ増への対応など、施設整備により不足したスペースが確保される

カテゴリー③: 高度な専門職業人の養成や専門教育機能の充実

[評価の視点]

【実績】 高度な専門職業人の養成、高い専門性や実践的な能力を培う教育内容・方法の質の改善・向上のための取組が行われているか。

【効果】 当該施設整備に伴って、高度な専門職業人の養成や専門教育の一層の充実が期待されるか。

(例)	a	b
実績	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国家資格取得や就職等で特に優れた実績がある ○ 文科省GP事業等の獲得実績がある 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国家資格取得や就職等で実績がある
効果	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教育内容・方法の改善・向上のため、必要となる施設整備の内容が示されるとともに、今後、その一層の充実強化が見込まれる 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 施設整備による教育内容の改善等に向けた取組が見込まれる ○ 医学部定員増への対応など、施設整備により不足したスペースが確保される

カテゴリー④: 大学等の特性を生かした多様な教育研究機能の充実

[評価の視点]

【実績】 社会的要請等を踏まえ、大学等の特性を生かした教育研究が行われているか。
(※法人等の規模や人文社会系の実績に配慮)

【効果】 当該施設整備に伴って、大学等の特性を生かした教育研究活動の一層の充実強化が期待されるか。

(例)	a	b
実績	<ul style="list-style-type: none"> ○ 競争的資金の獲得、共同研究・受託研究の実績が多い ○ 文科省GP事業等の獲得やJABEE認定など特色ある取組を行っている ○ 地域ニーズ等を踏まえ、国家資格取得(医師免許、技術士資格など)や就職等で高い実績がある ○ 附属学校において国の拠点校や地域のモデル校として高い実績がある 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 競争的資金の獲得、共同研究・受託研究等の実績がある
効果	<ul style="list-style-type: none"> ○ 大学等の特性を生かした教育研究活動の推進のため、必要となる施設整備の内容が示されるとともに、今後、その一層の充実強化が見込まれる 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 施設整備による教育研究活動の推進が見込まれる

カテゴリー⑤: 学生支援・地域貢献など大学等の戦略を踏まえ必要な機能の充実

[評価の視点]

【実績】 学生ニーズや地域ニーズ等を踏まえ、学生支援や地域貢献等を推進するための取組が行われているか。

【効果】 当該施設整備に伴って、学生支援環境の充実など学生支援や地域貢献の一層の充実強化が期待されるか。

(例)	a	b
実績	○ 学生ニーズや地域ニーズ等へ対応し、就職支援の充実や施設の開放等において特色ある取組を行っている	○ 学生ニーズや地域ニーズ等に対応し、一定の実績がある
効果	○ 学生支援環境の充実等のため、必要となる施設整備の内容が示されるとともに、今後、その一層の充実強化が見込まれる	○ 施設整備による学生支援や地域貢献等の取組が見込まれる

カテゴリー⑥: 附属病院機能の充実

[評価の視点]

【実績】 高度医療人の養成、先端医療の提供及びこれに係る研究、地域医療ニーズ等を踏まえた取組が行われているか。

【効果】 当該施設整備に伴って、教育・研究・診療活動の一層の充実強化が期待されるか。

(例)	a	b
実績	○ 高度医療に対応した人材の養成が積極的に行われている ○ 先端医療の提供やこれに係る研究で高い実績がある ○ 地域医療ニーズに対応した取組が積極的に行われている	○ 左記以外
効果	○ 地域の医師不足解消や地域連携による強化、高度医療や先端医療、急性期医療の一層の充実強化が見込まれる ○ 地域医療計画に即した一層の充実強化が期待できる	○ 左記以外

事業評価及び事業選定の方法について

平成25年5月31日

平成26年度の事業評価及び事業選定は、「平成26年度国立大学法人等施設整備の方向性」等に基づき、次のとおり実施する。

1. 事業評価

各要求事業に対する評価は、次の「個別事業」の評価及び「キャンパスマスタープラン及びシステム改革に関する取組状況」の評価を通じて行う。

(1) 個別事業の評価

各要求事業の内容について、次の観点から評価（a, b, c）を行う。

なお、各評価項目のうち、当該事業の「教育研究等への効果」について特に重視する（昨年度と同様、当該項目の配点を2倍に設定）。

【評価項目】

- 大学等の戦略との整合性等（各法人の施設整備計画等の戦略との整合性等）
- 事業規模や費用等の適正性（改修・改築や増築の必要性、事業費用の妥当性）
- 教育研究等への効果
- 環境負荷低減のための取組
- 安全、安心の確保

(2) キャンパスマスタープラン及びシステム改革に関する取組の評価

当該法人の取組状況について、次の観点から評価（a, b, c）を行う。

【評価項目】

- キャンパスマスタープランに関する取組
- スペースの有効活用に関する取組
- 施設の維持管理に関する取組
- 省エネルギー対策に関する取組
- 多様な財源を活用した施設整備
- 適正な事業執行

【昨年度からの主な変更点】

- 「キャンパスマスタープランに関する取組」について、キャンパス整備への国立大学法人の主体的な取組を通じた効果的・効率的な施設整備を推進するため、評価項目を追加。
- 「多様な財源を活用した施設整備」について、キャンパスマスタープランに関する取組の評価項目と重複する評価項目を削除。（「実施体制の確立」を削除）
- 「適正な事業執行」の評価項目について、取組が定着してきたことから、評価項目を変更（「外部からの不当な働きかけ等への対応」を「電子入札の利用促進」に変更）。
- 「適正な事業執行」の評価方法について、「補助金の適正な執行に関する取組」は各法人における特筆すべき取組の評価と併せて、円滑な執行状況を評価することとし、2段階評価（a, c）から3段階評価（a, b, c）へ変更。

↓↓

「補助金の適正な執行に関する取組」が「c」の評価である場合、「適切な事業執行」の評価は、他項目の評価にかかわらず、「c」として取扱い。

（3）全体評価

各要求事業について、「個別事業」の評価結果（各評価項目の合計点）を基本としつつ、「キャンパスマスタープラン及びシステム改革に関する取組」の評価結果を勘案（一部につき加点又は減点）の上、最終的な全体評価（S, A, B, C）を決定する。

2. 事業選定

平成26年度概算要求事業については、事業評価の結果を勘案しつつ、「国立大学法人等施設整備に関する検討会」において決定する、「事業選定の考え方」に基づき、最終的に文部科学省において予算の状況等を考慮の上決定する。

事業評価及び事業選定の方法

- 事業評価は、以下の「Ⅰ 個別事業」及び「Ⅱ キャンパスマスタープラン及びシステム改革に関する取組」について評価し、その結果に基づき、全体評価(S,A,B,C)を実施。
 - ・「個別事業」は、各要求事業について、カテゴリ（各大学等が、自らの戦略等に基づき要求時に選択）ごとに、以下の項目について評価。特に、「教育研究等への効果」を重視。
 - ・「全体評価」は、「個別事業」の評価結果を基本としつつ、「キャンパスマスタープラン及びシステム改革に関する取組」の評価結果を一部反映。
- 事業選定は、全体評価の結果を勘案しつつ、「事業選定の考え方」に基づき文部科学省にて決定。

事業評価

カテゴリ

- | | | | | | | |
|-------------------------------|-------------------|---------------------------------|-----------------------------------|--|-----------------|-------------|
| ① 国際的に卓越した
研究教育拠点機能
の充実 | ② 国際化の推進機能
の充実 | ③ 高度な専門職業人
の養成や専門教育
機能の充実 | ④ 大学等の特性を生
かした多様な教育
研究機能の充実 | ⑤ 学生支援や地域
貢献など大学等の
戦略を踏まえた必要
な機能の充実 | ⑥ 附属病院機能の
充実 | ⑦ 安全、安心の確保等 |
|-------------------------------|-------------------|---------------------------------|-----------------------------------|--|-----------------|-------------|

Ⅰ 個別事業

- | | |
|-----------------|--------|
| 1. 大学等の戦略との整合性等 | 【2点満点】 |
| 2. 事業規模や費用等の適正性 | 【2点満点】 |
| 3. 教育研究等への効果 | 【4点満点】 |
| 4. 環境負荷低減のための取組 | 【2点満点】 |
| 5. 安全・安心の確保 | 【2点満点】 |

Ⅱ キャンパスマスタープラン及びシステム改革に関する取組

【特筆すべき取組を行っている法人：+1点、一定の取組が行われている法人：±0点、左記以外：-1点】

全体評価

全体評価	カテゴリ①～⑥ (Ⅰの全項目及びⅡ) 【13点満点】	カテゴリ⑦	
		主に耐震補強 (Ⅰの1,2,5及びⅡ) 【7点満点】	基幹・環境整備 (Ⅰの1,2,4,5及びⅡ) 【9点満点】
S評価(※)	10点以上	5点以上	6点以上
A評価	8点以上	4点以上	5点以上
B評価	6点以上	3点以上	4点以上
C評価	5点以下	2点以下	3点以下

※ 合計点が「S」相当の場合でも、「Ⅰ 個別事業」の評価項目の中に「c」が含まれるときは、全体評価は「A」とする。

事業選定

I 個別事業

評価項目	評価※1		
	a	b	c
1. 大学等の戦略との整合性等	優先度が高い	優先度がやや高い	優先度が低い
○大学等の戦略に沿っているか ○大学等の優先度は高いか	すべてa	aとb	左記以外
①各大学等が策定する施設整備計画等の戦略との整合性	整合する		整合しない
②各大学等の優先度	高い	やや高い	低い
2. 事業規模や費用等の適正性※2	十分に評価できる	評価できる	不明確又は妥当でない
○事業規模や費用等が適正な内容となっているか	すべてa	aとb、又はすべてb	左記以外
①改修、改築や増築の必要性	十分に評価できる	評価できる	不明確又は妥当でない
②事業費用の妥当性	〃	〃	〃
3. 教育研究等への効果	十分に期待できる	期待できる	不明確である
○当該事業により見込まれる教育研究等への効果により、一層の活性化が図られ、成果が期待できるか	すべてa、又はaとb	すべてb	△：左記以外
①これまでの教育研究等の実績	高く評価できる	評価できる	不明確である
②当該事業により見込まれる教育研究等への効果により、一層の活性化が図られ、成果が期待できるか	十分に期待できる	期待できる	〃
4. 環境負荷低減のための取組	十分に期待できる	期待できる	不明確又は期待できない
○当該事業の環境負荷低減のための取組について効果が明確かつ期待できるか	〃	〃	〃
5. 安全、安心の確保	緊急性が高い	緊急性がある	緊急性が低い
○【改修・改築事業の場合】安全・安心の確保の観点から緊急性があるか	〃	〃	〃

※1 a：2点、b：1点、c：0点とする。「3. 教育研究等への効果」は、配点を2倍（a：4点、b：2点、c：0点）とする。

※2 一事業の中に当該事業と関連のない施設・設備が混在している場合や、長期借入が可能な事業について長期借入金等の活用が検討されていない場合は、「2. 事業規模や費用等の適正性」は「c」とする。

II キャンパスマスタープラン及びシステム改革に関する取組

1. キャンパスマスタープランに関する取組

評価項目	評価		
	a	b	c
(1) キャンパスマスタープランに関する取組	積極的な取組が行われている	一定の取組が行われている	左記以外
○アカデミックプランや経営戦略等を踏まえ、キャンパス整備の優先的課題を整理し、キャンパスの整備活用について必要な検討が成されているか	⑤が◎かつ①～④で◎が1つ以上 又は ①～④で◎が3つ以上	a及びc以外	⑤が△ 又は ①～④で△が2つ以上
①基本方針の検討状況	◎：積極的な取組が行われている	○：一般的な取組が行われている	△：左記以外
②整備方針の検討状況			
③活用方針の検討状況			
④実現に向けた取組の状況			
⑤キャンパスマスタープランの策定と実現を担う体制			

2. システム改革に関する取組

評価項目	評価		
	a	b	c
(1) スペースの有効活用に関する取組	特筆すべき取組が行われている	一定の取組が行われている	左記以外
○スペースの有効活用に関する取組が行われているか	一般的な取組に加え、特筆すべき取組が行われている	一般的な取組が行われている	左記以外
(2) 施設の維持管理に関する取組	優れた取組が行われている	一定の取組が行われている	左記以外
○修繕計画の策定において、修繕費を適切に記載等しているか	◎が3つ	a及びc以外	△が2つ以上
○施設の劣化状況や修繕歴等を把握しているか			
①中長期的な修繕計画における年度・施設ごとの修繕費の記載等			
②施設の劣化・損耗状況等の把握	◎：特に優れた取組が行われている	○：優れた取組が行われている	△：左記以外
③施設の修繕費や故障・修繕歴の把握等			
(3) 省エネルギー対策に関する取組	優れた取組が行われている	一定の取組が行われている	左記以外
○省エネ対策に関する全学的な検証をしているか	◎が3つ	a及びc以外	△が2つ以上
○建物ごとの光熱水量の把握・公表を行い効果検証を行っているか			
①省エネ対策に関する全学的な検証			
②建物ごとの光熱水量の把握及び公表	◎：特に優れた取組が行われている	○：優れた取組が行われている	△：左記以外
③省エネルギー対策の効果検証等			
(4) 多様な財源を活用した施設整備	優れた取組が行われている	一定の取組が行われている	左記以外
○多様な財源を活用した施設整備の実績があるか	◎が2つ及び特筆すべき取組が行われている	a及びc以外	△が2つ及び特筆すべき取組が行われていない
○多様な財源を活用した施設整備を行うに当たり実施体制の確立、整備手法の比較検討等を行っているか。			
①多様な財源を活用した施設整備の実績			
②整備手法の比較検討等	◎：特に優れた取組が行われている	○：優れた取組が行われている	△：左記以外
③客観的に確認できる整備効果や新たな手法の導入に係る取組	特筆すべき取組が行われている		左記以外
(5) 適正な事業執行	優れた取組が行われている		左記以外
○適正な事業執行を行っているか	○又は「円滑な執行に加え、特筆すべき取組が行われている」が3つ以上（④が「左記以外」の場合を除く）		左記以外 又は ④が左記以外
①ダンピング防止対策の導入	○：導入について学内規定等で定めている		△：左記以外
②入札・契約を監視する第三者機関の設置	○：設置済み又は設置を検討している		
③電子入札の利用促進	○：平成24年度発注の工事案件75%以上で電子入札を利用している。		
④補助金の適正な執行に関する特筆すべき取組	円滑な執行に加え、特筆すべき取組が行われている	円滑な執行が行われている	

評価項目	評価		
	A	B	C
キャンパスマスタープラン及びシステム改革に関する取組の全体評価	優れた取組が行われている	一定の取組が行われている	左記以外
1. キャンパスマスタープランに関する取組状況	1. 及び2. (1)～(5)のすべてがa	A及びC以外	1. 及び2. (1)～(5)のすべてがc
2. システム改革の取組状況			

※ A：+1点、B：±0点（標準）、C：-1点とする。

III 全体評価

評価	カテゴリー①～⑥ (評価項目：Iの全項目及びII) [13点満点]	カテゴリー⑦	
		耐震補強を主とした事業※1 (評価項目：Iの1.2.5.及びII) [7点満点]	基幹・環境整備事業 (評価項目：Iの1.2.4.5.及びII) [9点満点]
S ※2	10点以上	5点以上	6点以上
A	8点以上	4点以上	5点以上
B	6点以上	3点以上	4点以上
C	5点以下	2点以下	3点以下

※1 耐震補強を主とした事業：耐震補強に伴って、効率的な事業執行の観点から、当該建物の供用に当たり必要な最低限度の改修（バリアフリー、外部改修のみ）を行う場合を含む。

※2 合計点がSとなる場合でも、Iの個別事業の評価項目の中にcが含まれるときは、全体評価はAとする。

カテゴリー

- ① 国際的に卓越した教育研究拠点機能の充実
- ② 国際化の推進機能の充実
- ③ 高度な専門職業人の養成や専門教育機能の充実
- ④ 大学等の特性を生かした多様な教育研究機能の充実
- ⑤ 学生支援や地域貢献など大学等の戦略を踏まえた必要な機能の充実
- ⑥ 附属病院機能の充実
- ⑦ 安全、安心の確保等

キャンパスマスタープラン及びシステム改革に関する取組状況 評価シート

法人番号

法人名

1. キャンパスマスタープランに関する取組

1. キャンパスマスタープランに関する取組		回答欄
①基本方針の検討状況	◎	キャンパスの将来像の実現に向け、長期的に達成していく目標と短期的に実現する目標を設定し、学内の合意形成ができています。
	○	長期的な視点からキャンパスの将来像を検討している。
	△	上記以外
②整備方針の検討状況	◎	アカデミックプランや経営戦略等を踏まえ、施設整備の優先的課題の整理を行うとともに、施設等の群としての構成、屋外環境や基幹設備の整備などについて、エリアとして総合的な検討を行っている。
	○	整備方針を明確にし、必要となる部門別計画の検討を行っている。
	△	上記以外
③活用方針の検討状況	◎	アカデミックプランや経営戦略等を踏まえ、スペースの需要に応じて、施設利用の最適化を行う仕組みの導入や学外施設の活用の可能性の検討を行っている。
	○	活用方針を明確にし、必要となる部門別計画の検討を行っている。
	△	上記以外
④実現に向けた取組の状況	◎	多様な財源の活用を含めた整備手法の検討を行い、実現に向けた整備計画等を策定している。
	○	施設と併せて基幹設備や屋外環境の整備を視野に入れた整備計画について検討している。
	△	上記以外
⑤キャンパスマスタープランの策定と実現を担う体制	◎	キャンパスマスタープランの実現のため、組織的に必要な財源の確保・獲得を行うなど着実な推進を担う体制を構築し機能している。
	○	学内関係部署や学外関係機関と協力しキャンパスマスタープランの合意形成を行うとともに、その実現に向けたPDCAサイクルが機能している。
	△	上記以外

2. システム改革に関する取組

1. スペースの有効活用		回答欄
①取組状況（作成要領に基づき「◎：特筆すべき取組を実施、○：一般的な取組を実施、△：◎、○以外」のいずれかを記入）		
②特筆すべき取組（回答対象は①において「◎」を回答した法人。自由記入。）		
2. 施設の維持管理		回答欄
①中長期的な修繕計画における年度・施設ごとの修繕費の記載等	◎	主要な施設全てについて、サービスレベルなどの目標の達成に向け、ベンチマーキング等により業務改善を行うとともに、中長期的な修繕計画において教育研究上の必要性・緊急性を勘案した上で年度・施設ごとの修繕費を記載し、達成状況の定期的な検証により計画の見直しを行っている。
	○	主要な施設全てについて、中長期的な修繕計画において教育研究上の必要性・緊急性を勘案した上で年度・施設ごとの修繕費を記載している。
	△	上記以外
②施設の劣化・損耗状況等の把握	◎	主要な施設全てについて、計画的な巡回点検により劣化・損耗状況を把握しているとともに、利用者からの意見聴取等により求められる施設の機能や水準を把握している。
	○	主要な施設全てについて、計画的な巡回点検により劣化・損耗状況を把握している。
	△	上記以外
③施設の修繕費や故障・修繕歴の把握等	◎	主要な施設全てについて、修繕費や故障・修繕歴を把握しており、中長期的な修繕計画の見直し等にも活用している。
	○	主要な施設全てについて、修繕費や故障・修繕歴を把握している。
	△	上記以外
3. 省エネルギー対策		回答欄
①省エネ対策に関する全学的な検証	◎	省エネの基本方針に定めた数値目標等の達成状況について、学内規程等に基づき定期的に検証している。
	○	省エネの基本方針に定めた数値目標等の達成状況について検証している。
	△	上記以外
②建物ごとの光熱水量の把握及び公表	◎	一定の要件を満たす建物の光熱水量について、建物ごとに把握及び公表している。
	○	一部の建物の光熱水量について、建物ごとに把握及び公表している。
	△	上記以外
③省エネルギー対策の効果検証等	◎	光熱水量の使用状況の分析により、省エネ対策の効果検証を行っているとともに、その効果検証結果に基づき、必要に応じて、省エネ対策に関する中長期計画や管理標準等の見直しを実施している。
	○	光熱水量の使用状況の分析により省エネ対策の効果検証を行っている。
	△	上記以外
4. 多様な財源を活用した施設整備		回答欄
①多様な財源による施設整備の実績	◎	第3次国立大学法人等施設整備5か年計画で優先的に整備すべき対象として掲げられた施設整備について、一定の要件を満たす施設整備を、多様な財源を活用して平成23・24年度に実施又は平成25年度に確実に実施予定である。
	○	多様な財源による施設整備を、平成23・24年度において実施又は平成25年度に確実に実施する予定である。
	△	上記以外
②整備手法の比較検討等	◎	今後の多様な財源を活用した施設整備に活かせるよう、下記の○に示す検討結果や実施後の問題点等のノウハウを蓄積・検証をしているとともに、それらを他の国立大学法人等から照会があれば提供しうる。
	○	多様な財源を活用した施設整備の検討を行う場合には、必要な情報収集を行い、実施可能な整備手法について比較検討を行っている。
	△	上記以外
③客観的に確認できる整備効果や新たな手法の導入など特筆すべき取組（平成23年度以降の事業で具体例を提示できるもの。自由記入。）		
5. 適正な事業執行		回答欄
①ダンピング防止対策の導入	○	特別重点調査等を2億円以上の工事について導入するよう、学内規定等で定めている。
	△	上記以外
②入札・契約を監視する第三者機関の設置	○	設置済み又は設置を検討（複数の機関で共同設置の検討をしている場合を含む）している。
	△	上記以外
③電子入札の利用促進	○	平成24年度発注の予定価格を作成した工事案件（随意契約含む）における電子入札システムの利用率が75%以上（件数ベース）である。
	△	上記以外
④補助金の適正な執行に関する特筆すべき取組（自由記入）		